

Japanese
Dedication
62-1111M

献身

エリザベスタウン ケンタッキー州 アメリカ合衆国
1962年11月11日午前



www.messagehub.info

ウィリアム・マリオン・ブラハム

"...第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される。" 黙示録 10:7

はじめに

際立ったウィリアムブラナムのミニストリーは、マラキ4章4,5,6及びルカ書17:30と黙示録10:7と多くの聖書の預言に対する聖霊からの答えなのです。この世界規模のミニストリーはこの終わりの時に聖霊による神の御業の継続なのです。それは聖句の中にあり、イエスキリストの再臨のためにある人々を整えるために立ち上げるために必要とされていると書かれています。

あなたが祈り深くこのメッセージを読むとき、この印刷された御言葉があなたの心に刻まれるようにと祈ります。

メッセージの正しい転写、翻訳を提供できるように最善を尽くしておりますが、英語の録音がウィリアムブラナムによって語られた説教をもっともよく表しているものです。

オーディオや転写された1100の説教がウィリアムブラナムによって語られたものが無料でダウンロード可能で又多くの言語で印刷可能になっています。(日本語での翻訳あり)

変更が行わないかぎり、メッセージを無料でコピー、配布することは許可されています。

カルバリの木にて
わが救いを
贖い給えり。

献身

1 おはようございます、皆さん。

今朝、この素晴らしい小さな教会で、再奉獻式のためにここに立てることは、本当に特権であります。

先ほど奥の部屋でフーヴァー姉妹と話しておりましたが、ここは以前、確かピルグリム・ホーリネス教会、あるいはユナイテッド・ブレザレン教会だったそうですね。(ピルグリム・ホーリネスでしたね。そうです。)そして今は、フルゴスペルのために再び奉獻されることになり、今日はその再奉獻式であります。

そして、この素晴らしい牧師であるフーヴァー兄弟を、私たちは皆よく知っておりますが、本当に誠実で、献身した青年であります。

私は彼のお母様を何年も前から知っております。彼女と私の家族とは、まるで一家のようなものでした。子どもたちでさえ、彼女を「マミー・フーヴァー」と呼んでいました。というのは、子どもたちがまだ幼い頃、長い間私たちの家に来てくださったからです。ですから、子どもたちはそのように呼んでいたのです。敬虔で、聖なる年老いた母でした。

そして、その母が多くの祈りをささげてきたその立派な伝道者の息子は、自らの人生をキリストにささげ、全能の神の御用のために自分の人生を献げました。

そして今日、長い間眠ったままになっていたであろうこの教会、いや、この建物を引き受けて、フルゴスペルのかたちにおいて、福音を続けていこうとして立っているのです。

2 フーヴァー夫人が先ほど言うておられました。(L・G・フーヴァー夫人ですが。)数分前に「ただ信ぜよ(Only Believe)」の歌を弾いていたあの小さな女の子は、ご自分の娘さんだそうです。そして今、ここでピアノを弾いている子です。

三か月前、ここに来たときには、まともにも一曲も弾けなかったそうです。しかし今では、あのよう弾けるようになったのです。それは本当に、本当に素晴らしいことです。

実は、私の娘も後ろに座っていますが、もう五年か、それ以上音楽のレッスンを受けています。どれほど費用がかかったか分かりませんが、新しいピアノも

で買いました。それでも、あの小さな子が弾いていたように、賛美歌をあれほど上手には弾けません。

それを見ると分かりますね。神から与えられた賜物というものと、何とかして人間が作り出そうとするものとの違いが。

3 さて、神がこの場所をこの人々に与えてくださったことを、私たちは心から感謝しております。そして、ここがこの地域にとって大きな灯台となることを、私は信じ、期待しております。

多くの場合、人々は会衆を見てこう思います。

「この小さな教会では、そんなに多くの人はいらないだろう」と。

L・G・フーヴァー兄弟が言われたのか、あるいは別の方から聞いたのかは分かりませんが、こちらの会衆は七十人か八十人ほどだそうですね。……そのくらいだったと思います。少し少ないかもしれませんが、少し多いかもしれませんが、その辺りでしょう。まだ始まったばかりですから。

人々はこう思います。

「今の時代、国中には何千人も集まる教会があるではないか」と。

中には、礼拝のたびに何千人も集まる場所もあるでしょう。

しかし、この小さな群れを励ますために申し上げますが、それが神の見方ではありません。

神がご覧になるのは、人数ではないのです。

神はいつも量を基準にご自身を置かれるのではなく、質を重んじられるのです。

4 聖書の中に、使徒行伝十九章がありますね。パウロが上の地方を通ってエペソに来たときのことで、そこで彼は一つの教会を見つけました。それがエペソ教会でした。黙示録に記されているキリストの啓示の中で、教会時代の最初に数えられる教会です。

しかし、その教会にいたのは、聖書の記録によれば、わずか十二人でした。

人数は十二人だったのです。

私を形づくるそののこぎりに身をゆだねさせてください。

あなたが望まれる姿にしてください。」

これが、私たちの願いではありませんか。

では今、手を挙げて、この教会のすばらしい古い賛美歌を歌いましょう。

そして、この後の礼拝を牧師にお任せします。

「われ彼を愛す」

われ彼を愛す、われ彼を愛す、

彼まず我を愛したまえば。

カルバリの木にて

わが救いを

贖い給えり。

今度はハミングで歌いましょう。

そして隣の方と握手をして言いましょう。

「神の教会の石である兄弟よ、神の祝福がありますように。」

(ハミング)

彼まず我を愛したまえば。

カルバリの木にて

わが救いを

贖い給えり。

さあ、目を閉じ、頭を垂れ、両手を主に挙げましょう。

われ彼を愛す、われ彼を愛す、

彼まず我を愛したまえば。

生が聖霊によってとても豊かで健全になりますように。許してください、主よ。それらを例にしてください。許可してください、お父さん。

さあ、私たち一人一人を連れて行ってください。私たちは教会、建物をあなたに与えるとき、厳粛な献身をもってあなたに自分自身を捧げます。主よ、聖霊がその神聖な力、シエキナの栄光をもって、永遠を通して私たちの心に転がり落ちて来られますように。この終わりの日に聖霊の住まいを見つけ、私たちを使者として礼拝に招いてくださいますように—説教壇のためではなく、給油所、洗面器、どこにいても、牛乳配達人や新聞配達員に証言してくださいますようにあるいはそれが何であれ。

私たちに証言と、シエキナの栄光、聖霊、ご自身で満たされた生きた石を与えてください。私たちの心と人生を満たしてください、父よ。そして、この地上で礼拝が行われるとき、神が私たちを造られたように、私たちが分割されずに、私たち自身の方法で切り刻まれ、花嫁と呼ばれる偉大な教会に集まりますように。この地上の住居の幕屋からここに巻き込まれ、瞬間間に変わり、小羊の結婚式の夕食に空中で神に会うために神とともに携拳されるでしょう。なぜなら、父よ、私たちはこの教会で、できる限り神聖で奉獻された自分自身を、イエス・キリストの名においてあなたの奉仕に捧げるからです。アーメン。どうぞお座りください。

46 ここにいる皆さんのうち、だれがこう言いますか。

「神の恵みによって、神の助けによって、私は自分の心を明け渡します。

来てください、主イエス。

あなたの善で私を満たしてください。

あなたが望まれる者にしてください。

もし私が逆らっているなら、

あなたが私を形づくるために置かれた万力の中で、

右へも左へも動ける自由を持ちながらも、

自分勝手に動いているなら——

どうか、切り損なわれた石とならせないでください。

けれども、もしこの教会が十二人だけだったとしても、あのエペソ教会のように、完全に神にささげられているならば、神はその十二人を通して、世の残り全部よりも多くのことを成し遂げることがおできになります。

大切なのは、私たちの「明け渡し」なのです。

福音の真理がただ講壇から語られるだけでなく、人々の心の中に根を下ろし、そこに宿り、そしてそこから再び反応してくるのです。

ですから、今朝この場に立てることを、私は本当に喜びと感じています。

5 入口から入って来たとき、ビーラー兄弟が祈りをささげているのを聞きました。そして、彼が退役軍人であること、そして今日は休戦記念日(アーミスティス・デー)であることを思いました。

もちろん、私たちは皆、休戦記念日があることを喜んでおります。

しかし同じように、この教会の中にも「休戦の日」があり得るのです。

それは、自分自身の中で神に対して戦ってきた人々が、今日ここで休戦に署名し、イエス・キリストを通して神と平和を持つことができるということです。

ローマ人への手紙五章一節にはこうありますね。

「信仰によって義とされたのだから、わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っている。」

そして今、ここに座っておられる方々の中に、ブライアント兄弟姉妹や、幕屋から来られた友人たちのお姿も見受けます。

6 さて、今朝は本来、幕屋での日曜学校の主題について話す予定でしたが、こちらの奉獻式に来るために、それは今晚に延期いたしました。

今晚の幕屋での集会は早く始まります。

七時ちょうどには講壇に立って語り始めるつもりですので、遅れないようにいたします。そして、今晚は少し長いメッセージになります。

題は、

「なぜ私は組織宗教に反対してきたのか」です。

そして、それは聖書から教えられる内容です。

ですから、幕屋の皆さん、どうぞ早めにお越しください。

7 さて、フーヴァー兄弟よ。今朝、キリストに自分自身をささげ、この地の人々の中に立って、この栄光あるキリストのメッセージを人々に伝えようとしているこの若者のために、私はどう主に感謝したらよいか分かりません。

私はケンタッキー出身です。

ここから少し道を下ったところ、パークスビルという小さな町から来ました。ですから、ここにいる皆さんに、一人のケンタッキー人としてお願いしたいのです。

この若者の語る言葉を聞きに来てください。

人々の中に出て行き、あちこちで知らせを広めてください。そして人々を連れて来てください。連れて来るのです。

もし必要ならば、聖書が言っているように、「彼らを来させなさい、無理にでも来させなさい」とあります。

大通りに出て行き、垣根のところまで行き、そして「強いて」来させなさい——つまり、ぜひとも来るように勧めなさい。

さあ、来るのです。

8 そしてフーヴァー兄弟よ、私は彼をもう数年知っておりますが、彼が敬虔で献身した青年であることを知っております。どうか主が、彼の働きを常に祝福してくださいますように。

先ほど、あの小さな聖歌隊の歌声を聞きました。入口のあたりから少しのぞいてみましたが、聖歌隊が「Be Very Sure (本当に確かであれ)」と歌っていました。そうです、その通りです。

ほかのことについては多少いい加減でも構いません。しかし、自分の永遠の行き先のことになると、あなたは「本当に確か」でなければなりません。

これを心に留めておいてください。

本当に、本当に確かであることです。

私たちが神に奉仕のための建物を捧げるとき、この教会が今朝行うべきことは、これまでに行われたことすべてに関して、自分自身にも捧げましょう、と私は思います。ちょっと立ってみましょう、さあ。

それぞれが独自の方法で、それぞれの祈り方で... 私は今日、説教壇で神への奉仕に再び専念します。皆さん一人一人にそうしてもらいたいのです。建物を神に捧げるとき、自分自身を捧げましょう。

44 私たちの天の父よ、私たちは今朝、あなたがこの会衆に示した愛、礼拝のためにこの建物を彼らに与えてくださったこと、そしてこの会衆にこの牧師、奉仕者を与えてくださったことに深く感謝し、謙虚かつ誠実にここに集まりました。言葉。

そして今、天の父よ、礼拝のために捧げられる場所として、私たちは礼拝者として、あらゆる不信仰、あらゆる不親切な考え、あなたとは違うあらゆること、そしてあなたの言葉に反して私たちの中で行動するものをすべて脇に置きます。隣人や誰か—あちこち、あるいはどこにいても—が、たとえ消えていても、聖なる、聖化された器であっても、この人についての考えとして私たちに思い浮かぶであろうあらゆるもの、あらゆる信条、あらゆる宗派の考え、あらゆるもの。

あなたの言葉で語られている、最近のあなたの計画に反する人間、天使、存在、啓示、あるいはそれが何であれ... 誰かが言ったことではなく、あなたが言ったことです。なぜなら、それは書かれているからです。“すべての人の言葉は嘘であり、私の言葉は真実です。” もし私たちの中に、真の言葉を信じ、キリストの啓示を知ることを妨げる何かがあるとしたら...

神がペテロに言われたように、“私はこの岩の上に教会を建てます。” それに反するものがあれば、それを私たちから取り上げてください、主よ。私たちはそれを自分たちで脇に置きます。私たちはそれを追い出し、その代わりにその主要な礎石である、真の神の教会の基盤である聖霊を受け入れます。私たちはそれを受け入れます。

45 父よ、この小さな教会を祝福してください。建物を維持してください。礼拝のたびに礼拝者が何度もここに集まりますように。彼らの間に神への愛があり、彼らが互いに離れられなくなり、心が神の家に集まることを切望するようになりますように。許してください、主よ。

そして、彼らがとても塩辛く“あなたが言ったように、”あなたは地の塩です)、周囲のコミュニティ全員が彼らのようになることを切望するまで、彼らの人

キリストへの愛のしるしによって建てられたこの建物——

今日ここに、礼拝のためにささげられました。

人々が来て礼拝できる場所として。

しかし私の心からの祈りはこれです。

礼拝に来る一人ひとりが、

この建物の奉獻とともに、

自分自身の神殿をも奉獻することです。

それこそが、真の奉獻です。

42 それで、私たちの時間がなくなったので..しかし、神には時間がない。思い出しましょう。どれくらい遅い？私は老人たちを見ていますが、それはあなたが思っているよりも遅いかもしれません。私は若者、若い女の子を見ています。先日、この小さな子供たちが切り刻まれているのが発見され、小さな女の子たちが夢中になっているのを見てください。毎年何人が亡くなっているのでしょうか？心臓発作、がん、ポリオ、命を奪う可能性のあるあらゆる病気—道路での事故を抱えた数千人。どれくらい若い、何歳かはわかりません。

いつになるんだ？ラックからカードが呼び出されるのはいつですか？神以外にそれを知っている人はいない。そうだね。

それでは、今日、礼拝者が生ける神を礼拝するために来ているこの資料をここに奉獻している間に、生ける神の礼拝に身を捧げ、神が私たちをご自身で満たして下さるようにはいかがでしょうか？

そして、シェキナの栄光が再び生ける神の家、つまり人間の体、生ける神の教会に戻り、この国とこれらの町の周囲、そしてすべてを席卷する偉大なりバイバルが起こるのを私たちは見るでしょう。ここを通して。そんな騒音が聞こえるだろう、なぜ彼らはそれを止めることができなかつたのか。やり方がない。

43 スティーブンを止められると思う？だって、彼は強風で燃えている家のようなだったんだから。だって、彼を止めることはできなかつたんだから。サンヘドリンですら彼を止めることはできませんでしたし、死そのものも彼を止めなかつたことをご存知でしょう。彼は生き続け、今も生きており、永遠の命と神への奉仕に捧げられた家を持っていたので、これからも生き続けるでしょう。

決して賭けのようなことをしてはなりません。

たとえば、あなたがレストランに行ってスープを注文し、その中に大きなクモが入っていたとしたら、あなたは間違いなくそれを押し戻すでしょう。決して口にはしないはずですよ(そうでしょう)。なぜなら、それはあなたを殺すかもしれないからです。そのクモの毒がスープの中で煮込まれていたなら、それを飲めば死に至るかもしれません。

このやがて死ぬべき肉体のために、あなたがそこまで慎重になるのなら

では、死ぬ必要のないその魂についてはどうでしょうか。

ですから私は、フルゴスペルのかたちで語られる神の御言葉すべてを愛しております。そして私は知っておりますし、信じておりますし、確信しております。フーヴァー兄弟が神に対する約束を守り、自分の知る限り最善を尽くして、フルゴスペルを語り続けるであろうことを。

9 そこに座って、あの小さなピアニストが「ただ信ぜよ(Only Believe)」を弾くのを聞いておりました。

私の息子、ビリー・ポールは(今ここにいるかどうか分かりませんが)、私はこう言いました。

「ビリー、あの小さなピアノの音で『ただ信ぜよ』が弾かれているのを聞いたかい？」

あの小さな歌を、私は天の下のほとんどあらゆる言語で聞いてきました。

それが私を講壇へと呼び出したのです。

北極の凍りつく地から、南の熱帯のジャングルまで。

地の下でも、地の上でも。

あらゆる声で、「ただ信ぜよ」が私を講壇へと呼んだのです。

いつの日か、この地上での私の生涯が終わるとき、もし主の再臨を見るまで生きていないならば、私が葬られるときに、その歌を歌ってほしいと願っています。

私はイエス・キリストを信じています。

10 さて、この建物の再奉獻にあたり、いくつか聖書の箇所をここで引用したいと思います。これは聖書から来るものであります。

そして私はこう思います。

この教会は、ある組織のためにささげられるのではありません。

それは神の御用のためにささげられるのです。

では今、祈りのために、しばし頭を垂れましょう。

11 恵み深く、聖なる父よ。

今、私たちはあなたの御前にまいります。この部屋を離れ、信仰によって神の御座へと進みます。その黄金の祭壇は天から天へと広がり、すべての人間——信条、民族、肌の色にかかわらず——だれでも来ることが許されております。

キリストが死なれ、ご自身を私たちの罪の供え物としてその祭壇の上にささげられたゆえに、私たちは大胆に恵みの御座へと近づく権利を持っています。

今日この大いなる特権を与えられていることを、心から感謝いたします。

この地上にいるあなたの御体のすべての肢体が、この偉大な御座に近づき、福音による理解を超えた平和、和解の供え物を受け入れたことを感謝いたします。

今、神よ、この教会のために祈ります。

今朝、この小さな建物の奉獻のために集まってきたこの人々のために祈ります。彼らは愛をもって、手と心のしるしをささげ、この場所を整え、人々が礼拝に来ることのできる所といたしました。

神よ、どうか彼らの働きを祝福してください。

そして、私たちの恵み深い兄弟である牧師と、その妻、家族、執事、理事、役員、会員、そしてすべての人々を祝福してください。

12 そして今、慰めを求めて、あなたの御言葉を開きます。

私たちのしているこれらのことが、聖書に照らして正しいものであるかを知

世で聞いてきたすべての誤りを忘れ、

聖書の線に立ち返り、

その線の中にとどまるなら——

ソロモンがモーセに従ったように、

モーセが神に従ったように——

神はいつもそれを尊ばれます。

41 もし私たちが、初めの奉獻に立ち返り、

心を開き、自分を空にするなら——

神に自分をささげるその奉獻において、

神はご自身のシェキナの栄光で、

私たちの神殿を満たしてください。

そのとき、生ける神が、生ける教会の中で、

生ける民の間で動かれます。

そしてその栄光は広がっていきます。

やがてある日、

こちらにいる者、あちらにいる者、

国のあちこちにいる者が、

ひとつに集められて花嫁となるでしょう。

そして私たちは空中に引き上げられ、

主とお会いするのです。

さて、この愛らしい教会——

人々が生活の中からささげた献金と、

彼らは理解しません。
 理解するように生まれていないなら、
 理解しないのです。
 聖書がそう言っています。
 しかし神は、いつもご自身の神殿を満たされます。
 奉獻の日には、
 神はその神殿を満たされます。
 ご自身で満たされます。
 今日と同じです。
 完全にご自身をささげる神殿を、
 神は必ず満たされます。
 よく聞いてください。
 神殿とは、この小さな建物ではありません。
 ソルトレーク的神殿でもありません。
 ローマの神殿でもありません。
 神殿は、あなたです。
 あなたこそ、神が住みたいと願っておられる神殿です。
 あなたを通してご自身を表し、
 すべての国々が神を知るようにされたいのです。
 あなたは、生ける神のかたちです。
 神はあなたを通して働きたいと願っておられます。
 そして、どんな男であれ、どんな女であれ、

るために——なぜなら、思っているよりも時は遅いからです。
 今日、私たちは感じております。
 もうあまり時間が残されていない、と。
 しかし、私たちは立ち上がって働かなければなりません。
 急がねばなりません。
 勧め、そして強く促さねばなりません。
 キリストのからだにあらかじめ定められているすべての肢体に、このメッセ
 ージが届くまで。
 すべての人が聞くまで。
 自分たちにできるあらゆる努力を、すべて尽くしたと確信できるまで。
 父よ、あなたの御言葉を祝福してください。
 今、私たちが注意深い心と、開かれた耳をもって聞く間、あなたの御言葉
 を通して語ってください。
 あなたが私たちに知ってほしいと願われることを、喜んで受け取ることが
 できますように。
 イエスの御名によって求めます。
 アーメン。
 13 さて、聖書箇所を書き留めたり、印をつけたり、メモを取ったりする方も多
 いでしょう。それはよくあることですし、私も同じようにしております。
 もしよろしければ、今、最初の聖書朗読の箇所を開いてください。今朝は
 三か所から読みたいと思います。
 第一歴代誌17章1節から2節。
 使徒行伝7章44節から49節。
 そしてヘブル人への手紙10章1節から5節です。

まず第一歴代誌17章1節から読みます。

それから次に、使徒行伝7章、44節から。これはすべて、神殿の奉獻に関連しての箇所です。そして最後にヘブル10章5節です。

では、第一歴代誌17章より。

「ダビデがその家に住んでいたとき、ダビデは預言者ナタンに言った、『見よ、私は杉の家に住んでいるが、主の契約の箱は幕の下にとどまっている。』

ナタンはダビデに言った、『あなたの心にあることをすべて行いなさい。神があなたと共におられるからです。』

ところが、その夜、神の言葉がナタンに臨んで言われた。

『行って、わたしのしもべダビデに告げよ。主はこう言われる。あなたは、わたしが住むための家を建ててはならない。

わたしは、イスラエルを導き上った日から今日に至るまで、家に住んだことはなく、天幕から天幕へ、また一つの幕屋から他の幕屋へと移ってきた。』

14 それでは、使徒行伝七章四十四節より。

「わたしたちの先祖たちは、荒野に証しの幕屋を持っていました。それは、モーセに命じられ、彼が見た型に従って造るように言われたものでした。

その幕屋を、後に続く先祖たちは、ヨシユア(イエス)と共に携え、異邦人の地を所有するに至りました。神がわたしたちの先祖の前から異邦人を追い出された、そのダビデの時代までです。

ダビデは神の御前に恵みを見いだし、ヤコブの神のために住まいを得たいと願いました。

しかし、ソロモンが神のために家を建てました。

けれども、いと高き方は、人の手で造った宮にはお住みになりません。預言者が言っているとおりです。

『天はわたしの御座、地はわたしの足台である。あなたがたは、わたしにどんな家を建てるのか、と主は言われる。わたしの安息の場所はどこにあるのか。

これらすべては、わたしの手が造ったものではないか。』

教派でもありませんでした。

神ご自身でした。

神はその神殿を、シェキナの栄光で満たされました。

そして五旬節の日にも同じことをされました。

あの二階の間にいた百二十の「神殿」を、

ご自身で満たされたのです。

聖霊ご自身で。

シェキナの栄光が彼らの上に降り注ぎました。

ニムロデが失敗したことを、

神は成し遂げられました。

ニムロデは、人々が互いに理解できない塔を建てました。

しかし神は降って来られ、

一つのガリラヤの言葉によって、

すべての人に理解させられました。

それが何であるか、

神が何を語っておられるのかを。

ここに、神がご自身の神殿に来られる姿があります。

聖別された神殿に。

人の造った業績ではありません。

人が成し遂げたものでもありません。

神ご自身がなされたことなのです。

40 ああ、それは人々には愚かに見えるのです。

37 そして、この体が犠牲になったとき、正しい子羊が犠牲になったとき、その時出てきました。.. 神はご自身の体、つまり花嫁のもとに来られました。神が創造した神殿は奉獻の準備ができており、その不信仰をすべて打ちのめしていました。そして彼らは上の部屋に集まり、奉獻式を10日間待ちました。それから、完全に降伏すると、神はシェキナの栄光の中で再び降りてきて、彼らが座っていた家全体を埋め尽くしました。

38 神は何をされたのか？その日のメッセージのために箱舟が適切なソケットに落ちたように、神は適切なチャンネルに戻りました。宗派や手で作られた建物ではなく、人々の心に、彼は終わりの日に自分の場所に落ちました。預言者ヨエルはこう言いました。「“終わりの日に、私は注ぎ出すでしょう”私のシェキナはすべての肉に。あなたの息子や娘たちは預言するでしょう。あなたの若者は夢を見るでしょう、そして老人は幻を見るでしょう。” 神は安息の地に行き、そこで休息を得ました。建物の中ではなく、民の中心で彼は休息を見つけます。

39 なんとという恥辱でしょう。

なんとという失敗でしょう。

ニムロデの人間的な業績は、ついにどうなったでしょうか。

ニムロデが天に届く建物、あるいは組織を建てようとしたとき、

神はそれを打ち砕かれました。

それは人を助けるどころか、恥となりました。

神は人々の言葉を混乱させ、

互いに通じなくしました。

兄弟愛は断ち切られました。

しかし、神がご自身の神殿——

すなわち教会、民——のもとに来られたとき、

ソロモンの神殿を満たされたように、

聖別されたその「神殿」を満たされました。

それは信条ではありませんでした。

そしてヘブル人への手紙十章五節。

「それゆえ、キリストは世に来られたとき、こう言われた。

『いけにえや供え物をあなたは望まれなかった。しかし、あなたはわたしのために一つのからだを備えてくださった。』」

15 私たちは、今読んでこれらの聖書箇所にとっても親しんでおります。これらについて、しばらくの間語りたと思います。

さて、ダビデは願いと啓示のもとに、心の中で非常に立派なことを思い描きました。

ダビデは立派な人物であり、人々から愛されておりました。そして神は彼を多くの点で祝福しておられました。そこで彼はこう言ったのです。

「主が与えてくださったこの立派な家に私は住んでいるのに、私の神の契約の箱は、いまだ幕の下に置かれている。これは正しいことだろうか。」

それは非常に気高い思いでした。

ダビデがこのことを悟ったのは、ひとつの啓示でした。というのも、彼が杉材で造られた立派な家——当時としては非常に高価で豪華な住まい——に住んでいながら、

「私にこれらすべてを与えてくださった神の契約の箱は、いまだ天幕の下に置かれている」

ということが、どうしても心に引っかかったからです。

16 預言者ナタンは、神がダビデと共におられることを知っていました。そこで彼は言いました。

「ダビデよ、あなたの心にあることをすべて行いなさい。神があなたと共におられるのだから。」

つまり、神が啓示を与えられるとき、それを実行しなさい、ということです。しかし、この出来事は、まだ進行中でした。

その夜、主はこの先見者——預言者ナタンに臨んで言われました。

「行って、わたしのしもべダビデに告げよ……」

私はこの言葉が好きです。

「ああ、わたしは彼の勇気を認める。わたしのために住まいを建てようとする、その思いを尊ぶ。」

しかし、主はこう言われました。

「わたしは家に住んだことはない。滞在する場所を持ったこともない。わたしが地に下りて、わたしの民を顧みるときでさえ、住む場所はなかった。イスラエルを導き上って以来、わたしは裁き人たちのだれにも、杉の家を建てよと命じたことはない。ただ天幕から天幕へと移ってきたのだ。」

もしそれが、今日の姿をそのまま映していないとしたら、何でしょう。

「わたしは天幕から天幕へ、場所から場所へと移り、わたしの民と会ってきました。」

そしてさらに聖書が語るとおり、主はこう言われました。

「ダビデに告げよ。わたしはあの羊の囲いから、あなたを取ったのだ。あなたの父のわずかな羊を追っていたあの所から。わたしはあなたに、地上の偉大な人々のような名を与えた。

わたしはあなたの敵を右にも左にも断ち、あなたを守った。

わたしはあなたを愛している、ダビデ。

あなたの願いが正しいことも知っている。

あなたの志が誠実であることも知っている。

そして、あなたがわたしを愛していることも知っている。」

17 詩篇を見れば分かりますが、ダビデは絶えず神のことを思っていました。

今日の私たちの多くは、自分の達成や、自分をより良くするために何ができるかを考えがちです。しかしダビデは、神のために何ができるかをいつも考えていたのです。

「ダビデよ、あなたの願いは正しい。

そして、わたしがあなたのためにしてきたことを知ってほしい。

ソロモンが神殿を建てたのは、ダビデに約束されたからであり、それは神の約束の成就でした。

しかしそれは「型」でした。

そしてその型は、やがて「反型(アンチタイプ)」によって取り去られるものでした。

奉獻のときにささげられた子羊のいけにえもまた、やがて来られる真の小羊の型でした。

自然のものは、靈的なものの型にすぎません。

そしてステパノはこう言いました。

「わたしたちの先祖は神の前に恵みを見いだし、ソロモンは神のために神殿を建てた。

しかし、いと高き方は、人の手で造られた宮には住まわれない。

預言者が言ったとおりである。

『天はわたしの御座、地はわたしの足台である。

あなたがたは、どんな家をわたしに建てるといふのか。

天はわたしの御座、地はわたしの足台である。

どうしてわたしの住む家を建てることができようか。』」

そして、なんと美しいことでしょう。

ヘブル人への手紙十章五節。

「しかし、あなたはわたしのために一つのからだを備えてくださった。」

ここに示されています。

神は、建物に住まわれるのではなく、

「からだ」に住まわれるのです。備えて下さったのです。

ああ!

栄光が神殿全体を満たすほどに。

火の柱がそこに入り、

神の栄光があまりにも強く現れたので、

祭司たちはもはや務めを果たすことができなかつたのです。

神の栄光のゆえに。

35 それが、最終の安息の場所に収まったときでした。

あのシェキナの栄光が、彼らを導いてきたその臨在が――

隅の石ではなく、かぶさる石(キャッピング・ストーン)、

すなわち頭石(かしら石)が据えられたときです。

それまでは、ほかの石はどれほど整っていても、完全ではありませんでした。

しかしこの主要な石が入り、

かしら石としてその位置に据えられ、

その世代のための安息の場所に収まったとき、

神の栄光が満ちたのです。

彼らが座っていたその場所全体に、

シェキナの栄光が満ちました。

建物全体がその栄光に包まれました。

そしてその栄光はあまりにも大きく、

祭司たちはもはや務めを果たすことができなかつたのです。

神の栄光のゆえに。

36 さて、神殿の奉獻から、もう一度使徒行伝七章四十四節に戻りましょう。

ステパノは、あの有名な説教の中でこう語りました。

あなたは、だれにも知られていないただの少年だった。

父親でさえ、あなたに数匹の羊を預けただけだった。

しかし、わたしはあなたと共にいた。

あなたの敵を右からも左からも断ち、守ってきた。

あなたの願いは正しい。」

しかし主は続けて言われました。

「だが、ダビデよ、あなたは戦いの人だ。

あなたは多くの血を流した。

わたしはあなたにこのことをさせることはできない。

しかし、あなたに約束しよう。

あなたの身から出る子、あなたの子を起こし、

その者が神殿を建てるであろう。」

18 さて、私たちは皆、地上のものが天上のもの型であることを知っています。

自然のものは霊的なもの型にすぎません。

実際に神が語っておられた本当の神殿は、キリストのことでした。

しかし、ダビデの肉による息子ソロモンが、後にその神殿を建てました(第一列王記を読めば分かります)。それは、ダビデが建てようとしていた神殿でした。

なぜなら、ソロモンは平和の人であり、知恵の人だったからです。

ダビデのように戦いに出て、多くの血を流した人ではありませんでした。彼は平和の人でした。

そして神は彼に知恵を与えられました。

神の御前で願いを求めるように言われたとき、彼は何を求めたのでしょうか。

彼は富も、名誉も、大いなる賜物も求めませんでした。

ただ一つ、知恵を求めたのです。

「あなたの民を正しく導くための知恵をください」と。

それだけでした。

神の民を最善に導くための知恵を願ったのです。

19 そして私は思うのです。

もし私たちが祈るとき、自分のために何か大きなものを求めるのではなく、ただ神の子どもたちにとって最善となる理解を求めるならば、それで十分ではないでしょうか。

私は本当に思います。

この牧師がこの教会をここに導き、この古い建物を取り上げて今日再奉獻しているのは、まさにその心から来ているのだと。

彼は、神の民のために、雨や雪をしのぐ場所を見つけようとしているのです。

神の民が集まり、礼拝できる場所を。

私は信じます。

神はこの青年のその思いを、ダビデの思いを尊ばれたのと同じように、尊んでおられると。

20 さて、ここには大きな霊的適用があることが分かります。私は主にその点に触れたいのです。

第一列王記を読めば分かりますが、ソロモンは若いころから、父ダビデに対して神が約束されたその神殿を建て始めました。

つまり、彼は御言葉と約束の線の中にとどまったのです。

ここが大切です。

成功するためには、いつでも神の約束の線の中にとどまらなければなりません。

同じ戒め、同じ契約です。)

その二枚の石の板の上には、

ケルビムが向かい合い、

翼を互いに広げて覆っていました。

34 その契約の箱を担ぐことができたのは、レビ人だけでした。

そのために聖別された者たちだけです。

それ以外の者が触れれば、死にました。

彼らは、自分たちがこの務めのために聖別されていることを知っていました。

そして命じられたとおりに、箱の輪に棒を通しました。

モーセは神から命じられ、その設計どおりに契約の箱を造りました。

今、彼らはそれを担ぎ上げました。

天幕から行進が始まりました。

ラッパが鳴り響き、

琴が奏でられ、

主の御前にささげられた動物のいけにえの煙が立ち上りました。

奉獻の建物の中へと進み、

ついにその箱は、

そのために備えられていた大きな据え所に運び込まれました。

そして、ぴつたりとその場所に収まったとき、

ついに安息の場所に落ち着いたとき——

聖書はこう言います。

主がその所に降って来られた。

「ホーリーローラーの連中だ」と呼んだり、
奇妙だ、感情的だ、と片づける代わりに――

受け入れるならば、

そのとき、建物は一層早く完成へと向かうでしょう。

33 しかし気づきましたか。

建物が完成したあとでも、それはまだ空の建物だったのです。

中には家具があるだけでした。

ソロモンは自分にできることをすべて成し遂げました。

しかしそれで終わりではありませんでした。

いよいよ奉獻の日が来ました。

この建物を礼拝のためにささげる日です。

しかし、礼拝されるべきものがなければ、

その建物は無意味だったでしょう。

けれども今や建物は、奉獻の備えが整いました。

レビ人と祭司たちが整列し、

幾千ものラツパが空に響き渡り、

罪のためのいけにえとして、子羊が次々とほふられました。

レビ人たちは定められた位置に立ち、

契約の箱の角へ進み、

その輪に棒を通しました。

その箱の中には、二枚の石の板がありました。

(二枚であっても、それは一つ。

こちらのほうが良さそうに見えようと、あちらのほうが近道に思えようと、御言葉に沿って進むことです。

ソロモンは知っていました。

神が父ダビデに、神殿を建てさせると約束されたことを。

21 さて、気づいていただきたいのは、この神殿の材料はパレスチナの中だけで見つかったのではなかった、ということです。そこだけでは十分ではなかったのです。

ソロモンは、その神殿に用いる材料を求めて、当時知られていた世界のあちこちへと行かなければなりませんでした。

なんと美しい適用でしょうか。

神は、ご自身の材料を、ユダヤ人だけから切り出されるわけではありません。

白人だけでもありません。

茶色でも、赤でも、黒でも、どんな色の人々であっても、その中だけに限られません。

アメリカだけでもありません。

カナダだけでもありません。

神は、世界中からご自身の材料を切り出されるのです。

22 もし、ある地方で特別な種類の石が切り出され、また別の国で別の石が切り出されていて、その石が、ほかの国で切られた石にぴったり合うように整えられていたとしたら――

それを通りすがりの人々が見たなら、奇妙に思えたでしょう。

形も違い、場所も違い、用途も分からない。

なぜあのように不思議な形に切り出されているのか、と。

しかし神は、ご自身の方法で何かを成しておられたのです。

そして私は思います。

今日も神は同じことをしておられるのだと。

あの型(タイプ)の反型(アンチタイプ)として。

神は、ご自身の望まれる方法で石を切り出しておられるのです。

それぞれの石は、それぞれの国で切り出され、その土地に特有のものでした。しかし、ある石は別の土地で切られた石とぴったり合うように整えられていました。

そしてそれらは運ばれました。

牛車で運ばれたものもあれば、

海を渡って来たものもあり、

いかだに乗せてヨッパまで流されたものもありました。

そこからさらに運び込まれました。

あらゆる方法で運ばれましたが、

すべてが一つの場所へ向かっていました。

一つの目的のために。

それは、神の命令を成就するためでした。

23 そして杉材はレバノンで切り出されました。

レバノンの杉は、世界中でも最も名高い杉でした。

たとえば今日で言えば、レッドウッドはカリフォルニアにしか見られません。

アフリカのモッセルベイには「スティンクウッド」と呼ばれる有名な木がありますが、それも他では見られません。

このように、木材はそれぞれの土地に特有のものがあります。

レバノンの杉は非常に高く、堂々とし、そして堅い木でした。なぜなら、その土地は温暖だからです。

国が暖かければ暖かいほど、木は堅くなります。

しかし、不快にならないように言っておきますが、聖書だけを見ていただければ、それはどちらでもありませんでした。それはペテロの告白であり、キリストが誰であるかについての啓示でした。というのは、神はその質問をしたので、それは関係する質問だったからである“人は人の子である私を誰だと言うのか?” モーセ、エリ阿斯、そして…立ち上がった預言者の骨とか、そういうことを言う人もいました。それが彼だった。

しかし彼は言いました、「“あなたは私が誰だと言いますか?”」質問があります。

彼は言いました… ペテロは言いました。“あなたは生ける神の子、キリストです。”

彼は言った、「“ヨナの子シモン、あなたは幸いです。肉と血があなたにこのことを決して明らかにしなかったからです。”(あなたはそれを本で学んだことも、神学校で聞いたこともありません。)しかし、天におられる私の父はそれをあなたに明らかにされました。そしてこの岩の上に(神の言葉の霊的啓示、神が言葉であった)私は教会を建てます、そして地獄の門は決してそれに勝つことはありません。”

32 それこそが本物の教会です。

モルタルや煉瓦や石で造られた、やがて朽ちるものではありません。

本当の教会は、御言葉と神の御心の啓示の上に建てられています。

そしてそれらの石は、エペソ教会時代から、今のラオデキヤに至るまで、からだの中に置かれてきました。

さて、ソロモンが神殿を完成させた日を考えてみてください。

建てる者たちが、あの退けられた隅のかしら石を受け入れたとき——

その瞬間から建物は上へと立ち上がっていったのです。

ここで、すべての教会のすべての人に対する敬意をもって、慎みをもって申し上げたいと思います。

今日の建てる者たちが、あの退けられた石を受け入れるなら——

それを押しのけたり、

触れられるもの、

感じられるもの。

特に「見た目」によって。

「私たちの立派な人々を見てください。

この町で最も優れた人々が集まっています。

市長も来ています。

市の幹部も、警察署長も、私たちの教会に来ています。」

しかし、いざ建物を建てる段階になると、

残っているのはただの石とモルタルだけ。

建物は完成しませんでした。

道を退けてしまったのです。

神がそのために備えておられた石を、

彼らは拒んだのです。

30 しかし、次の章で、建設業者が自分たちが間違っていたことに気づいたとき、それがわかります。それでも、そこには他のすべての石がありましたが、それらを集めることができなかった理由は、穴が残っていたからです。何かおかしいことがありました。

さて、私たちはすでに石、神があらかじめ定めた石を持っています、見てください。そして、エフェソスからラオデキアまでずっとそれらを手に入れました。私たちは建設業者が拒否した墓石を待っているだけで、彼の到来を待っています一蓋石。そして、これらの大きな石が告白であるとき。今、私たちは告白が石であることを知っています。

31 さて、私たちのカトリック教徒は、いつそう言うのでしょうか... イエスは話して、こう言われました。“この岩[または石]の上に、私は教会を建てます。” さて、ローマカトリック教会は、ペテロが石であり、文字通りの人間であったから、それはペテロであったと言っています。彼は数日後に後退した。さて、プロテスタントが石であるキリストだったと言っていることがわかります。

寒い土地では、木は柔らかくなります。

これにも霊的な適用があります。

冷たく、無関心であれば、柔らかく、漂うようになってしまいます。

しかし、温かく、御霊に満たされているならば、しっかりと結び合い、主の御手にあつて用いられるものとなるのです。

24 さて、これらの偉大な杉材は、熟練した職人たちによって切り出されました。そして彼らには設計図がありました。

世界のさまざまな場所から集められ、それらは一つに組み合わされました。

ここで気づいていただきたいのは、ソロモンは、モーセがシナイ山で天において見た型から、少しも外れなかったということです。

モーセは幻から帰って来たとき、天で見たとおりに幕屋を建てました。まったくそのままに。

そしてソロモンもまた、神殿を建てる時、見せられた型どおりに建てました。

モーセは移動するための幕屋を建てました。それは各地を移動する「型」でした。

しかしソロモンは、モーセが天で見た型どおりに、定まった神殿を建てました。

すべてが組み合わされ、秩序正しく、まさにその型どおりに置かれました。

ここに、どれほど大きな霊的適用があることでしょうか。

私たちは決して聖書から離れてはならないのです。

型どおりにとどまることです。

それゆえに私は信じます。

最初の教会がどのように建てられたか、その型どおりに、次の教会も建てられるべきであると。

すべての教会が、初めにあったその姿どおりに建てられるべきであると。

そして私は信じます。

神はそれをそのように定めておられると。

真の教会は、そうであると。

よろしい。

25 それぞれの土地で切り出された材料は、一つの場所に集められました。

(今、第一列王記六章を引用しています。)

そして、それらが組み合わされたとき、四十年かけて建設されたその神殿において、ひとつの石も切り直されることはありませんでした。

のこぎりの音も、金づちの響きも、一切聞かれなかったのです。

四十年のあいだ、一度も。

なんという石工術でしょう。

なんという建築でしょう。

しかしそれは、私たちが神の定められた型に従って何かを行うとき、どうなるかを示しています。

多くの石は、とても奇妙な形をしていたでしょう。

しかし、その奇妙で、独特な石にも、神殿の中に置かれる場所があったのです。

神は、それぞれの石のために場所を備えておられました。

ここに美しい型があります。

私たちの働き、私たちの奉仕は、それに対応する反型(アンチタイプ)なのです。

私たちの個性、私たちの礼拝の仕方。

他の人から見れば、少し変わって見えるかもしれません。

そしてそれが、キリストの花嫁の建物が、まだ花婿を迎える準備ができていない理由です。

建てる者たちが、五旬節の日に据えられたあの隅のかしら石――

すなわち聖霊のバプテスマを退けてきたからです。

29 それは奇妙に見えるのです。

人々の振る舞いも、どこか変わって見える。

それは、私たちの心理学の枠にも、

教育の枠にも、

学問の体系にも、

信条の型にも、

うまくはまりません。

だからこそ、それは退けられてきたのです。

あまりにも奇妙で、

あまりにも独特で、

私たち人間が思い描いてきた「教会のあるべき姿」と合わなかったからです。

私たちはこう考えてきました。

教会とは、磨かれた学者たちの集まりであるべきだ。

上品に着飾った人々の集まりであるべきだ。

教育プログラムのようなものであるべきだ。

五感を満足させるものであるべきだ。

見えるもの、

味わえるもの、

私たちは教派を築きました。
 誠実な思いで築きました。
 若者たちを学校に送り、会衆の前で上手に話せるよう教育しました。
 心理学や聖書史を学ばせました。
 立派な長椅子を並べ、
 高くそびえる尖塔を建て、
 美しい音楽も備えました。
 しかし、それでも何かが足りないのです。
 私たちは人間の作り出した材料で建てようとしてきました。
 教育が生み出せるもの、
 神学校が訓練できるもの、
 学識によって得られるもの。
 教育の上に、
 学識の上に、
 教派の上に建てようとしてきました。
 しかし、あの「奇妙な石」、
 あの「特別な石」を受け入れない限り、
 それらは決してうまくいきません。
 建物が形を現し始めたとき、
 空いているその穴に、
 その奇妙な石がぴったりと合うことが分かったのです。
 それが今日の霊的な建てる者たちの姿です。

少し奇妙に見えるかもしれません。

しかし、やがて本当の神殿——これから少し後で触れるその神殿——が完成するとき、そこにはすべての「一見変わっている」人のための場所があるのです。

私たちは、誰かから見れば少しおかしく見えるかもしれません。

少し変わって行動しているように見えるかもしれません。

しかし覚えていてください。

そこには、私たちのための場所があるのです。

神はご自身の教会を切り出しておられます。

そして、ひとつひとつの石が、ぴったり合う場所を持っているのです。

26 そして覚えていてください。

石は、組み合わされる場所とは別の所で切り出されました。

しかし、いざ組み合わされたときには、削り直す必要はまったくありませんでした。

すでに磨かれていたのです。

神があらかじめ、その場所にぴったり合うように整えておられたからです。

なんと美しい型でしょう。

霊的なことにおいても同じです。

神から与えられたすべての賜物、

新しく生まれたクリスチャンの一見奇妙に見える行動や個性でさえも——

そこには場所があります。

からだの中に位置があります。

それは正しい所に収まるのです。

しかし私たちは時にこう言ってしまいます。

「それは神から出たものではない。」

真面目で、聖く、献身した十字架の兵士についてでさえ、そう言うてしまうことがあります。

「この前の夜、教会であんなことを聞いた。

あれは神からではないはずだ。」

しかし、それが型に沿っているならば、

聖書に沿っているならば、

たとえ少し奇妙に見えても、

そこには場所があるのです。

それはきちんと収まります。

削る必要も、磨く必要もありません。

なぜなら、偉大な建築家であるキリストが、今もそれを備えておられるからです。

一つひとつ、互いに違っていても、

それぞれを整えておられるのです。

27 さて、次の章を見ると、この建物の中に一つの石があったことが分かります。それはあまりにも奇妙な形をしていて、どう扱ってよいか分からなかったのです。

そこで建てる者たちは、その石を退けました。

隅のほうに投げてしまい、

「この石はあまりにも変わっている。使い道がない。こんな形の石に合う場所などない。」

と言ったのです。

ここをよく覚えていてください。

それを見抜くべきだったのは、建てる者たちでした。

イエスもこのことを語られました。

ところが、建物が高く積み上げられていくうちに、彼らはその石を見失ってしまいました。どこへ行ったのか分からなくなったのです。

船をすべて調べたかもしれません。

牛車を一つひとつ調べたかもしれません。

ヨツパへも使いを送り、

「もう一荷届いたか？」

「道中で一つ失くしてはいないか？」

「何かがおかしい。この場所に必要な石が見つからない。」

と探し回ったでしょう。

しかし、どこを探しても見つかりませんでした。

そしてついに分かったのです。

それは、すぐそこ、地面の上にあったのです。

それこそが、建てる者たちの退けた石でした。

それが、隅のかしら石だったのです。

すべての建物が、その上に支えられる、要の石だったのです。

イエスは言われました。

「あなたがたは読んだことがないのか。

建てる者たちの捨てた石が、隅のかしら石となった。」

28 そして私は思います。

今日、神が住まわれる霊的な家を建てるにあたり、建てる者たちは大きな失敗をしてきたのではないのでしょうか。